

＜県研究主題＞

楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 蒲谷 麻美（湘南三浦地区）

＜研究主題＞

一人ひとり、思いや意図をもち楽しく表現活動しよう

～思考力、判断力、表現力を育む学習プロセスづくりの工夫～

1 提案内容

思いや意図をもって表現（歌唱、器楽、音楽づくり）する力や音楽全体を味わって鑑賞する力を育成する学習指導の工夫。感じ取ったことを言葉で表すなどの言語活動の充実をめざし、第5学年、第6学年の二学年にわたる指導の実践。

(1) 【実践例1】「だれかが口笛ふいた」（第5学年）

指導の工夫

- ① ワークシートを活用し自分の考えや思いを書き込めるようにした。また、そのワークシートをもとにグループでどのように歌うかを話し合い歌の練習をした。
- ② はずんで歌う、すこし強めで歌う、アクセントはハキハキと歌う、元気よくなど、児童の意見を取り上げながら歌唱活動に取り組んだ。グループ毎で話し合いながら表現の工夫をした。

成果

・一人ひとりが思いや意図をもって歌唱表現ができるような活動为目标に、グループ活動を取り入れたが、ワークシートに記入された自分の考えを仲間に伝え、共感・共有することで、「音楽のもと」と関連付けて、児童の発言の中から「こう歌いたい」「この部分は、こんな気持ちで歌ったらどうかな」等、表現の工夫が高まっていく活動が見られた。

課題

- ・語彙力の少なさを感じた。音楽にかかわる用語、強弱記号を活用できない。
- ・思いや意図をもつことが難しく、どうして暗く歌うのか、どうして強く歌うのかななどを言葉で説明できない。

(2) 【実践例2】「われは海の子」（第6学年）

第5学年での実践の課題である語彙力を充実させるために第6学年では「音楽のもと」の活用に取り組んだ。音楽を形づくっている要素や音楽を表現するうえで手がかりとなる言葉を児童の発言の中から取り上げて年間を通して活用した。

指導の工夫

- ① ワークシートを用いて、全体で旋律の音の動きや特徴的リズムを感じ取ったり、歌詞の内容を考えたりした。
- ② グループ毎に話し合いながらワークシートへの書き込みをし、強弱記号（表現の工夫）やなぜその記号を使うのか（思いや意図の工夫）について話し合った。

成果

- ・表現の工夫では、「音楽のもと」で取り上げた言葉を活用することで言語活動の幅が広がった。
- ・ワークシートを活用しながら話し合い活動をすることで、思いや意図をもって表現できた。

課題

- ・グループ活動を深めるための言葉がけの難しさを感じた。教員の説明や声掛けが多すぎて、児童の考えを広げられなかった。
- ・思いをもちながら歌うことができたが、聞き手に思いや意図が伝わるような演奏ができなかった。

2 協議内容

- ・付箋にアドバイスを書かせる際には、聴く視点を教諭が明確にする必要があった。
- ・小グループは話し合いがしやすく、大グループは意見の交換などを通して活動を広げられるというメリットがそれぞれあった。
- ・グループ任せにしていると、強く歌いたいところが本当に強く歌えているかなどが児童自身にわからないことがあると思う。言語活動だけになってしまうと音楽的な力を付けられないので技能面での指導も必要。
- ・細かいところばかりでなく曲全体を大きくとらえて曲想を考える事も必要（曲のヤマに注目させる）
- ・作曲者の意図をどうくみ取るかが大切。作曲者の思いや意図を想像する活動のしかたもある。児童の実態によるが、親しみのない曲では難しいのではないかと思う。
- ・楽譜を拡大して提示するなどの工夫があると聴いている児童にも見る事ができて良かったのでは。

3 助言

- (1) 語彙量を増やすことは、週2～3時間の授業時間の中では難しいところもあるので、年間の系統だてた計画が必要である。各学年で身に付けさせたい語彙を音楽担当が発信してほしい。
- (2) 思いや意図を表現する工夫では、強弱記号をつけてから思いをもたせるか思いをもってから強弱記号をつけるかということは題材やねらいによる。今回は思いをもってから強弱記号をつけた方がよかったのではないかと思う。
グループになったときに個人の思いがつぶされてしまうのではと危惧されるので、教諭が全体に広げたい意見などをうまくひろいあげる必要がある。
- (3) なぜグループ活動が必要なのか
 - ・言語活動の充実のため。
 - ・知識というものは体験をもとにしないと身に付かないので、活動を通して児童に学びをさせてほしい。
 - ・人の話を聞くチャンスができることで考えが広がり、自分へのフィードバックをすることができる。
- (4) 専科の教諭と担任でそれぞれにできることできないことがあるので、それぞれの視点を学校運営に生かしてほしい。専科の先生に学年間の橋渡しなどをしてほしい。

<研究主題>

音楽を親しみ、生き生きと表現できる児童の育成
～題材構成や学習指導の工夫・改善～

1 提案内容

児童が音楽を楽しみ、無理なく共通事項を身に付け活用し、生き生きと表現できるようにするための題材構成や学習指導の工夫を行った。また、低学年でも主体的に楽しく取り組める「音楽づくり」について考え、実践した。

(1) 題材構成の工夫について

- ① 題材名 おとでよびかけっこをしよう
- ② 題材の目標 問いと答えの表現や身の回りの音に興味・関心をもち、問いと答えの面白さを感じ取って楽曲を聴いたり、問いと答えのような表現を工夫して簡単な音楽をつくったりする。
- ③ 題材構成 (全6時間)

時数	① (1時間)	⇒	② (1時間)	⇒	③④⑤⑥ (4時間)
領域	表現 (歌唱)		鑑賞		表現 (器楽・音楽づくり)
楽曲	・こぶたぬきつねこ ・ひらいたひらいた ・アイアイ		・行進曲 (チャイコフスキー)		・きらきらぼし (ほしぞらの音楽をつくろう)
学習活動	既習曲や親しみのある曲で、「問いと答え」の仕組みを楽しく学ぶ。(まねっこ・おしゃべり・いっしょ)		2色のリボンを使い、金管楽器と弦楽器の旋律のかけ合いや音色の違いを感じ取る。		星をイメージした楽器を選び、即興的にリズムをつくってつないだり、音楽の仕組みを使って音楽づくりをしたりする。
共通事項	「問いと答え」(核となる共通事項)				
	強弱		音色・強弱		音色・リズム・強弱

(2) 学習指導の工夫について

- ① クラス全体での音楽づくり
 - 音楽の仕組みを確認した後に、一人ひとりが楽器とリズムを選び、リズムリレーを行い、クラス全体で星空の音楽を作った。これが、グループ学習の素地となった。
- ② グループ活動での音楽づくり
 - ア 見通しをもたせるために発表までの流れを掲示した。
 - イ 音楽づくりにおける約束の掲示をした。
 - ウ 教員のモデルを提示し、児童の意欲へつなげた。
 - エ ワークシートの工夫で、曲の構成をしやすくした。
 - オ 教員の言葉がけで、児童の演奏を価値づけた。
- ③ 発表会における指導の工夫

ワークシートの提示や児童同士の声かけなど、聴いている児童への配慮を行った。

(3) 成果と課題

- ・題材構成や指導を工夫することで、児童が無理なく「問いと答え」を身に付け、楽しく表現できた。低学年からの積み重ねが必要である。
- ・活動の流れを可視化することで、見通しをもって活動ができた。
- ・共通事項（「問いと答え」「反復」「リズム」「強弱」「音色」「拍の流れ」）は、それぞれが互いに関係し合う題材であり、広がりを感じられた。
- ・ねらいをもって活動することで、児童の達成感が見られた。
- ・振り返りカードを活用することで、児童の思いや意図がより伝わってきた。
- ・グループ活動で音が混ざってしまい、学習活動の場所分けに課題が残った。
- ・グループに分けることで、個の活動の見取りが難しくなってしまった。

2 協議内容【〔共通事項〕を要として、複数の領域・分野の関連を図る指導の工夫について】

- ・1学年から継続して「音楽の仕組み」に関する素地を作ることで、6年間を見通して系統的に指導できる。
- ・低学年のうちから様々な楽器に触れさせることで、音楽づくりの素地を養う。
- ・児童が「やってみたい！」と思うような手立てや工夫があることで、安心して表現したり、鑑賞したりすることができる。
- ・身に付けさせたい力を教員が明確にして活動を組み立てたり、題材を考えたりすることで、一貫した指導が可能になる。
- ・鑑賞活動が表現活動に生かされており、領域を関連させた指導が効果的だった。
- ・構成の工夫なのか、即興の工夫なのかが分かりづらかった。即興の工夫であれば、共通事項の「音色」に重点を置いた指導ができたのではないか。
- ・即興したものを形に残すための工夫が考えられるとよかった。

3 まとめ

- ・意図的に題材構成を組むことで、丁寧な実践や児童の目線に立った指導の工夫が可能になる。題材構成の際には、題材を通して児童にどのような力を身に付けさせたいのかということを明確にし、児童の姿で語れるようにする。そうすれば学びのある活動になる。
- ・児童が安心して学習する環境づくりが必要である。例えば、反復を積み重ねることで学びの基盤を作ったり、教員が発表会までのプロセスに目を向けて価値付けをしたりすることなどがある。これらは、児童の自信や主体的な活動へとつながる。
- ・児童がいかに主体的に活動できるかは、教員の意図的な働きが重要になる。学習活動を可視化して見通しを持たせることで児童がゴールを想像することができる。また、事前に必要な種を撒いておくことで、児童は達成するために何をすればいいのか、その術を考えることができる。
- ・グループ活動を行う際には、ある程度の時間を設定し、自分の思いをまとめることを習慣づけることが必要である。自分の時間を作ることで、思いや意図をもった活動につなげられる。
- ・グループ活動においてはねらいを明確にし、ただ話し合うだけの音楽にならないようにする。
- ・小学校では、年度が変わって担任が変わると、これまでの学習の素地が崩れることが多い。どのように6年間の学習をつなげていくのかを工夫して行ってほしい。